

柔らかな春の日差しが平和都市広島を包み込み、旅立ちにふさわしい季節となりました。そして今日の良き日、269名の皆さんの新しい門出を、広島県知事代理 広島県環境県民局長 森永智絵様、広島県議会議長 山木靖雄様をはじめ、ご多用の折にも拘わらず駆けつけてくださいました多くのご来賓の方々のご臨席のもとにお祝いできますことは、教職員一同の最も喜びとするところであります。ご卒業、おめでとうございます。

さらに、卒業する皆さんをしっかりと支え、今日のこの晴れの日を、ともにお迎えになっ
ていらっしゃる保護者の皆様に対しましても、心よりお祝いを申し上げます。おめで
とうございます。

今皆さんの頭の中には、多くのキャンパスでの思い出がよぎっていることと思います。
それではここで、皆さんが本学で学んだ教育について、あらためて振り返って見ることに
しましょう。

ある有力な民間調査会社が行った調査結果は、本学の学生は、ひたむきにものごとに取
り組む真面目さと勤勉さ、そして粘り強さを備えているという、所謂「愚直力」において、
他大学に比べて極めて秀でていると結論しております。

私達教職員は、そうした皆さんの愚直に勉学、そして大学生生活に向かい合う姿勢を高く
評価し、それを本学の誇りとしています。昨年度の5つの国家試験への全員合格、さらに
就職率99.8%の実績などはそうした真摯に勉学に取り組む皆さんの姿を確実に証明してい
ます。しかし、本学の学生に対して私達はそれだけでは満足していません。これからの社
会には、その愚直力に加え、自ら問題を発見し、それを解決する能力が求められているこ
とを私達は強く意識し、2013年度から大胆な教育改革に取り組んで参りました。

皆さんが多くの授業で経験したアクティブ・ラーニングの実践はその一環として行われ
ました。本学は全国約750大学及び短大・高等専門学校の中から選ばれた9つのアクティ
ブ・ラーニングモデル校の一つとして、現在も活発に取り組んでおります。皆さんは入学
当初からそうした実践を受けてきました。授業内での討論、グループ学習や授業質問用紙
などを介した授業の疑問点の抽出、そして自分の意見や考えのプレゼンテーションなど
により、自ら学び、積極的に物怖じせず、社会、そして外に向かって挑戦する姿勢を皆
さんの心に刻もうと、本学は教職員一体となってその教育を施してきました。

皆さんは私達の期待に見事に応えてくれました。例えば、本学で初めて取り組んだ、県
内外の方々から資金を得てレモンという地域の資源を活用するクラウドファンディングが
成功した背景には、複数のレモン農家と親交を結び、レモンの収穫と全国への配送、そし
て自らレシピを作成してレモン料理の魅力を県内外に広めた学生の皆さんの活動がその基
盤にあります。また人間文化学部の先生の指導を受けながら、古文書をひも解き、500年前
の毛利元就当時の食卓を再現して、食文化を地域に伝え、地域の魅力発信に活用する活動、
地域ビジネスや観光資源の発掘を介した旅行モデルコンテストなどでの受賞、さらに国内
外の学会や大学において、活発になされた自らの研究成果発表、宮島の歴史を学んで外国
からの旅行者の英語ガイドを務める活動など、実に多くの学外活動を積極的に行ってき
ました。併せて他大学と競い合うことに意欲的に挑戦する姿勢も育っています。例えば経営
学科の幾つかのゼミ学生は、日経新聞社による日経テスト学生団体対抗戦に参加し、経営

学分野の知識と応用力の向上に努めていますが、その結果昨年度は、一橋大学や早稲田大学など歴史ある経営分野の先進校などが競う中で、本学2つのゼミが全国5位以内に入賞し、表彰を受ける快挙を成し遂げています。

幾つかの広島キャンパスの学生の活動例を紹介してきましたが、こうした事例と関わりが直接無かったとしても、皆さんは、真摯に勉学に向かうひたむきな姿勢と、主体的に学ぼうとする意欲、そして自らの力を社会に発信する能力は、しっかりと自らのポテンシャルとして獲得しているはずです。

さて、今から飛び立つ皆さんに、1つだけ心に留めておいて欲しいことがあります。最後の私からのメッセージとして受け止めてください。愚直力そして主体的にチャレンジする力を自分の未来を拓く力として活かすためには、前を見据えた高い志が求められると言うことです。

心理学などで引用されているお話を紹介します。過酷な環境で育った一卵性の双子がいました。双子の父親は麻薬常習者そして酒乱であり、荒れ果てた生活を送り、酔っては母親と子供を殴るという環境で育ちました。双子が30歳になったとき、心理学者がそれぞれ2人に尋ねました。双子のうちの一人は父親同様に薬物中毒になっており、家庭は父親と同様、暴力が原因で悲惨な状態になっていました。彼に質問しました。「なぜこんなことになったのですか？」返ってきた言葉は「あんな環境で育った私に、これ以外の何ができるのだ！当然のなりゆきさ。」でした。

双子のもう1人は、全く異なった生活を送っていました。ビジネスで成功し幸せな結婚をして素晴らしい父親になっていました。彼に同じ質問をしました。「なぜこんなことになったのですか？」返ってきた言葉です。「あんな環境で育った私に、これ以外の何ができるのだ！決して父親のようににはならないことだけを考えて生きてきた。」この双子の育った環境は同じ、そして同じ遺伝子を持っているはずです。同じような人生を歩むとなってもおかしくなさそうです。しかし「真逆の人生」が彼らにありました。決定的な違いは、過去の経験を咀嚼し、自らの志に変える力の差にあったということです。

過去の事実は変えられません。前を向いて自らの未来をより高い次元に引き上げる、高い志があつてこそ、自らに秘められた力が未来を切り開く力になれるということを、しっかりと心に刻んでください。

さあ いよいよ旅立ちです。

春風や 闘志いだきて 丘に立つ

高浜虚子の俳句の世界が今、まさに皆さんの心にあると思います。丘の前に広がる大海原が皆さんを待っています。最後に私達教職員一同、皆さん1人1人の旅立ちをいつまでも見守り、応援することをお約束して、卒業の式辞を閉じたいと思います。

いつまでもお元気で

平成31年3月22日

県立広島大学長 中村 健一